



就任のご挨拶

代表取締役社長

日向野 正徳

この度、2026年4月よりデンカポリマー株式会社の代表取締役社長に就任いたしました、日向野(ひがの)正徳です。

平素より、当社の事業活動に対し、格別のご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

はじめに、簡単に自己紹介をさせていただきます。

私は1991年に親会社である電気化学工業株式会社〈現デンカ株〉へ入社し、総合研究所〈現イノベーションセンター、町田市〉に配属され、ポリマーアロイや難燃性樹脂の研究・開発に携わりました。その後、1997年より群馬県の伊勢崎工場にて、主に電子部品用包装材料の開発に長年従事し、品質保証や製造の分野にも関わる中で、半導体メーカーをはじめとする多くのお客様から、ものづくりに対する考え方や品質への厳しい姿勢を学ばせていただきました。

2016年からは千葉工場の研究所にて、粘着テープやBOPSの開発に携わり、生活に身近な製品分野に関わる経験を得ました。さらに2018年以降は神奈川県の大船工場に勤務し、製造をはじめ、環境保安、品質保証、生産技術、管理部門など、幅広い業務を経験する機会に恵まれてきました。こうした現場での経験を通じて、事業は人によって支えられており、相互の理解と信頼、そして誇りがあってこそ成り立つものであることを、改めて強く実感しております。

デンカポリマーは、創業以来、プラスチック製品の製造・供給を通じて、社会と産業の発展に貢献してまいりました。食品容器をはじめとする生活関連分野から、流通・産業分野に至るまで、当社の製品は多くの場面で皆さまの暮らしや事業活動を支えてきたものと自負しております。これまでの歩みは、常にお客様の声に真摯に向き合い、品質と安定供給を最優先に考え、信頼を一つひとつ積み重ねてきた歴史であると考えております。これまで当社を支えてくださったお取引先の皆さま、関係各位の長年にわたるご支援に、改めて深く感謝申し上げます。

現在、私たちを取り巻く事業環境は、大きな転換期を迎えています。環境負荷低減への要請の高まり、資源循環型社会への移行、社会課題への対応など、企業に求められる役割は年々高度化しています。一方で、日々の生活や産業活動を支える素材としてのプラスチックの重要性は、今後も変わることなく存在し続けると考えています。だからこそ、素材を扱う企業として、その価値を最大限に引き出しながら、社会からの期待に誠実に応え続けることが、これまで以上に重要になっていると感じています。

当社はこれまで、ものづくりにおける技術力と品質へのこだわりを強みとして、時代の変化に対応してまいりました。お客様の多様なニーズに応える製品開発、安定した供給体制の構築、安全・安心を最優先とした事業運営など、日々の取り組みの積み重ねが、現在のデンカポリマーを形づくっています。私は、この蓄積された信頼と実績を大切にしながら、次の時代に向けた持続的な成長への道を、着実に歩んでいきたいと考えています。

今後は、安全・安心を大前提に、環境との調和や資源の有効活用に配慮した製品・サービスの提供を通じて、社会に貢献し続けてまいります。また、長期的な視点に立ち、事業基盤のさらなる強化と新たな価値創造に取り組むことで、変化の激しい事業環境においても、安定したパートナーとして皆さまに信頼していただける企業であり続けたいと考えています。

お客様にとって「信頼できる存在」であることは、当社にとって最も重要な価値です。今後も誠実な事業運営を通じて、品質、供給、対応力のすべてにおいてご期待にお応えし、より一層強固な信頼関係を築いていく所存です。

この重要な節目に、当社の舵取りを担う責任の重さを強く自覚するとともに、身の引き締まる思いであります。これまで築き上げてきた皆さまとの信頼を何よりも大切にしながら、一步一步着実に前進してまいります。

今後とも、デンカポリマー株式会社に対する変わらぬご支援とご指導を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。